

早期胃がん（内視鏡的粘膜下層剥離術）



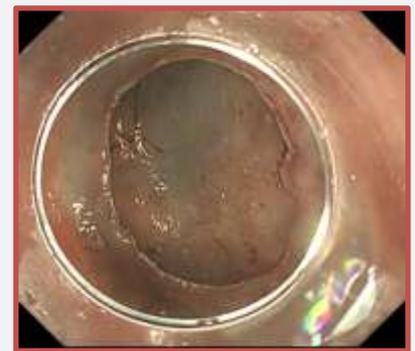
市立大津市民病院における、2019年度上部消化管内視鏡検査件数は6,357件、早期胃がんに対する内視鏡的治療は47件でした。日本消化器内視鏡学会指導医2名、専門医6名の体制でチーム医療を行っています。

胃がんの治療方法は、外科で行われる腹腔鏡下手術や開腹手術、抗がん剤治療などがあります。なかでも、リンパ節転移の可能性が低い早期胃がんに対しては、内視鏡的手術：内視鏡的粘膜下層剥離術が行われます。非常に早い段階のがんは、侵襲の少ない内視鏡治療で完治できるのです。



内視鏡的粘膜下層剥離術について

- ① 口から内視鏡を入れてがんの周囲に印をつけます。
- ② 印の周囲をメスで切って溝を作ります。
- ③ がんを周囲の粘膜ごとはがして切り取ります。



- ④ 切り取った跡には大きな潰瘍ができますので、安静・絶食・点滴・内服薬による治療などが必要です。

組織は病理検査で最終診断をして、その後の治療や経過観察の判断材料とします。すべての結果については、後日主治医より説明致します。

より詳しいことは、冊子を作成しておりますので是非参考にして下さい。

おおよその入院期間と費用について

手術名称	入院期間	点数	3割負担の方の概算費用 (限度額適用なしの場合)
内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜下層）	10日間程度	60,000点程度	20万円程度

概算は、限度額を適応していない金額です。

※70歳未満の方が限度額認定証をご提示いただくと、

1ヶ月ごとの自己負担額が、所得区分:ウ(年収約370万～770万円)の方で10万円前後です。

※70歳以上の方は高齢者受給者証をご提示いただくと、

1ヶ月ごとの自己負担額が、所得区分:一般の方で57,600円程度です。

限度額は所得により異なります。食事代や差額ベッド代は限度額認定証の対象外です。

私

たちにお任せください



市立大津市民病院 消化器内科